

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
小学校	橋本市立柱本小学校	植山 善夫
学校所在地		
(〒 648 - 0092) 和歌山県橋本市紀見ヶ丘 2 - 20 - 1 tel 0736 (37) 2811 fax 0736 (37) 2960		
担当者名		役職名・担当教科
弓場 大樹		教諭・6年担任
<p>〔学校の概要〕</p> <p>本校は、橋本市の北部に位置し、校区内には371号線、南海電鉄高野線が通り、大阪との結びつきが強く、交流も盛んで交通量も多い。学校は、明治39年に3つの小学校が統合して柱本小学校となり、歴史と伝統があり、地域住民の母校愛に支えられて発展してきた。今年で117周年を迎える。昭和62年に、橋本市住宅開発計画（特に紀見ヶ丘・光陽台）に伴って学校地を現在の橋本市紀見ヶ丘2丁目20番地1号に移転し、新校舎（普通教室6、特別教室6）で授業を開始した。開発の進展に伴う児童の急激な増加に対応して、南校舎（普通教室13）、プール、屋内運動場が完成したが、平成8年度を境に児童は減少傾向にあり、本年度は、学級数8学級（特別支援学級2を含む）、児童数128名である。</p> <p>児童たちは総じて明るく素直で、協調性に富み男女間でも仲が良く、校庭で元気に遊ぶ。</p> <p>また、保護者、地域住民は教育への関心が強く、学校教育活動の推進に積極的に協力し、学校に対する期待が大きい。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年 6年生 24名	12名 職員3名	6年教室・高野町中央公民館・壇上伽藍・女人道
実践研究テーマ		
主体的に自分の考えを伝え合うことのできる児童の育成		
実践教科等名	単元名	
社会科 総合的な学習の時間	社会科：日本のあゆみ 総合的な学習の時間：ふるさと学習～地域について深く学び、情報を発信しよう	
〔キーワード〕 和歌山県 世界遺産 SDGs		
<p>〔単元目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 日本で生まれた文化や、和歌山県の世界遺産について興味を持ったり、理解を深めたり、考えたことをまとめたりすることができる。（知識及び技能） ◆ 日本で生まれた文化や、和歌山県の世界遺産の課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を考えたり、どのように受け継いでいくかについて考えたりすることができる。（思考力、判断力、表現力等） ◆ 日本で生まれた文化や、和歌山県の世界遺産などの伝統を大切にしようとする考えを持つことができる。（学びに向かう力、人間性等） 		
<p>〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕</p> <p>全体12時間 （「ふるさと学習～地域について深く学び、情報を発信しよう～」 5時間 ）</p>		
<p>〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 伊都地方子ども育成事業実行委員会・・・地域学習教室「世界遺産 高野地域を知ろう」 ◆ 和歌山県世界遺産センター・・・次世代育成事業における世界遺産授業・女人道道普請 ◆ 世界遺産マスター・・・現地学習「壇上伽藍」 		

実践校に関する事項			
〔单元指導計画概要〕			
	<p>主な学習活動</p>	<p>学習への支援</p>	<p>評価方法等</p>
1	<p>貴族が生み出した新しい文化 「貴族の願い」 熊野本宮大社が世界遺産であることを知り、熊野もうでを学ぶ。(1時間)</p>	<p>和歌山県に世界遺産があることに気づかせ、興味を深める。</p>	<p>(知識及び技能) 観察</p>
2	<p>地域学習教室 「世界遺産 高野地域を知ろう」 高野地域の学習をする。(1時間)</p>	<p>次世代育成事業の授業につながるように、気づいたことをメモしたり、自分の考えを書いたりできるようにする。</p>	<p>(知識及び技能) 観察・ワークシート</p>
3	<p>次世代育成事業 世界遺産に触れる。(5時間)</p>	<p>地域学習教室での学習を活かし、学びを深められるようにする。</p>	<p>(思考力・判断力・表現力等) 観察・ワークシート (学びに向かう人間性) 観察</p>
4	<p>和歌山県の世界遺産 高野山以外の和歌山県の世界遺産について学習する。(3時間)</p>	<p>熊野三山・参詣道などの項目に分け、パワーポイントの資料を用いて説明する。また、世界遺産だけではなく、その地域の良さについても説明をする。</p>	<p>(知識及び技能) ワークシート・発表 (学びに向かう人間性) ワークシート・発表</p>
5	<p>まとめ・発表 世界遺産について学んだことから自分の考えをまとめて発表し、その考えを共有する。(2時間)</p>	<p>タブレット端末などを用いて、自分の考えをまとめたり、共有しやすい環境を作ったりする。</p>	<p>(知識及び技能) 発表 (思考力・判断力・表現力等) 発表</p>
〔单元学習の成果と課題〕			
<p>社会科「貴族の願い」で出てきた熊野本宮大社から、和歌山県にも世界遺産があることや、世界遺産はどういったものかを繋げて学習してきた。</p> <p>成果は2つのことが挙げられる。</p> <p>1つ目は、児童が橋本市以外の和歌山県の世界遺産や、その地域の良さについて興味を持ち、学習を進められたことである。「橋本市＝故郷」という考えだけでなく、「和歌山県＝故郷」という考えを持つことで、自分たちが住む和歌山県・橋本市への愛着が増したと考えている。</p> <p>2つ目は、人の手を加えていかないと、守り続けるのが困難であることに気づけた点である。道普請を行ったことにより、守り続けていくことの大切さや、今までも多くの人の努力によって守られてきたことに気づくことができた。</p> <p>課題は、高野山だけでなく、熊野三山の学習も現地学習を行いたいという点である。高野山での学習のように、実際その場所を歩く・見る・感じることで、より学びを深められると思っているので、橋本市ということから考えたときに地理的に難しいこともあるが、実現できる方法を次年度以降模索していきたい。</p>			
〔世界遺産学習の効果〕			
<p>高野山は5年生のときに森林学習で訪れている。今回は、その5年生の学習で学んだ高野山とはまた違った角度から、高野山を学ぶことができた。道普請に携わることで、世界遺産を守る側の活動を経験し、さらに世界遺産への関りが主体的なものになったと考えられる。このように1つの場所でも、さまざまな見方から学習ができるということを感じるきっかけになり、昨年より高野山についての興味・関心を深めることができたと感じる。</p>			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕			
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 世界遺産の歴史的価値や、現在の状況の学習だけでなく、保存やこれからの活性化について考えられるような体験を増やしていくことが大切だと考える。 ◆ 本校では、5年生で高野山森林学習が固定化されているので、高野山の学習を単発で終わるのではなく、今回の次世代育成事業をセットにして、2年続けて高野山の学習ができればと思う。 			

様式 2

令和5年度「次世代育成事業」における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

【令和5年11月1日（水）】

午前は、高野町中央公民館にて、世界遺産センター土永さんによる世界遺産についての講義を受講した。「世界遺産って何だろう」「世界遺産条約とは」「紀伊山地の霊場と参詣道」「世界遺産をどうやって守るか」について教えていただいた。

世界遺産とは、世界中の人たちの宝物であるという内容から、自然災害や都市開発、地域紛争などの新たな脅威から守り続けていくことの重要性を学ぶことができた。紀伊山地の霊場と参詣道では、和歌山県の中にたくさんの世界遺産があることを学び、そのすべてが霊場と参詣道で繋がっていることを知ることができた。どうやって守っていくかについては、清掃活動のみならず、道普請で道を再生したり、ロードキルが起らないように対策しているところがあったりと、さまざまな方法で人が手を加えながら守り続けていることを学ぶことができた。（写真①）

午後は場所を移動して、壇上伽藍で世界遺産マスターの方から説明を受けた。午前は世界遺産全体の説明であったが、午後は高野山の世界遺産について詳しく学習することができた。建物1つ1つの名前や説明から、その建物がどのような役割を担っていたかなど、とても丁寧に教えていただいた。児童も世界遺産マスターの方に質問をしたり、体験をしたりと、意欲的に取り組むことができていた。三鉢の松では、一生懸命に3本の松の葉を探している様子もあった。（写真②・③）

世界遺産マスターの方との学習後は、場所を大門付近に移し、高野参詣道女人道の道普請を行った。土を土嚢に入れて運び、足や道具を使いながら運んだ土を固めた。大変な作業ではあったが、「世界遺産を守る」という活動を児童が経験できたことにより、より世界遺産の大切さを実感したとを感じる。また、機械を使うことができない場所だからこそ、守り続けていくことの大変さも実感することができた。

（写真④）

今回の次世代育成事業により、世界遺産に対しての知識だけでなく、自分たちが住む橋本市の近くにすばらしい世界遺産があることを知り、より自分たちの地域や、和歌山県への郷土愛を育むことができていると思う。

【次世代育成事業後の授業】

次世代育成事業の後には、高野山以外の和歌山県の世界遺産について学習した。霊場と参詣道に分け、はじめは霊場について学びを深めた。学習の際に大切にすることは、霊場の学習だけでなく、その霊場がある街の様子や良いところなど、橋本市以外の市町村にも興味を持ってもらい、和歌山県の魅力を知る機会になればと考えた。霊場の学習後に参詣道の学習をし、改めて世界遺産が繋がっていることを確認した。（写真⑤）

その後、世界遺産の学習を通して学んだことから、自分の考えたことをまとめた。まとめる際にはタブレット端末を使用し、全員に考えが共有できるような工夫をした。また、令和6年2月17日（土）の学習発表会で、世界遺産学習について発表する班もある。

今回の世界遺産についての学習は、学校だけではなく、伊都地方子ども育成事業実行委員会・世界遺産センター・世界遺産マスターと、多くの方にご協力していただき進めることができた。

関わってくださったすべての方に感謝申し上げます。

